

# 「先生のための学校」誌上 開校

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋

## お年玉は「つぶやき漢字ドリル」

あけましておめでとうございます。この一月によく「つぶやき漢字ドリル」の1年から3年が小学館から発売になります。4年から6年は3月に発売です。

去年の今頃、書店で偶然「ウンコドリル」が平積みされているのを見て愕然としたのです。私はこれを見て、思わず子どもへの迎合だ。いや、子どもを舐めてるのか、僕たち教育の専門家が舐められていると感じたのです。これは怒りだけでなくジェラシーでした。このドリルを駆逐してやる。

僕が息巻いていると、出版に携わっている知り合いが、「久保さん、そうは言ってもあのドリルはデザインや装丁、アイデアは抜群なのですよ」という。「じゃあ、小学校教育の専門家がそれ以上のものをつくって駆逐してやろうじゃないか。」「その後、教

育の専門家が二匹目のドジョウじゃないけれどオナラ〇〇を出版したのですが、そっちの方はさっぱりらしいですよ」「許せん！」「こんなことしたら、日本中の教室や家庭がウンコだらけになるじゃないか！！」

僕は怒りに任せてさっそく小学館に企画書を送った。小学校教育の専門家としてのプライドが許さん。悪貨よく良貨を駆逐せんとでは困る。必ず良貨で悪貨を駆逐してやる！この怒りが届いたのか一応のゴーサインがでた。そうなれば先手必勝だ。3年から始めて、ひらがな、カタカナ、1年から6年まですぐに原稿はできた。こんな時の集中力はすごい。まるまる一日あれば一学年はできる。フォーマットが決まれば、頭の中にあるものを流し込み、汚い字で書きまくるだけだ。

ところが、なかなか正式なゴーがでない。正式なゴーサインがでたのは、学力研の大会の分野別分科会の中だった。僕は必死で「つぶやき漢字ドリル」の必要性を訴えた。押さえつけて鼻から口から目から耳からその必要性を押し込んだ。この講座の参加者の良い教材を求める雰囲気が高まったので、その後正式なゴーサインがでた。

正式なゴーサインがでるまでに、先行投資をしたくれた出版社と支えてくれた関係者に感謝している。この世知辛い世の中に、教育へのロマンを感じ危険を冒してくれる方々に感謝している。教育は教育関係者だけで成り立っている訳ではない。世の中の良心得成り立っているのだと思う。

デザインや装丁、企画、イラスト、印刷、本屋さんや販売やいろいろな人が関わってくれて、ようやく教材が子どもの手に、親の手に、教師の手に届くのだ。すべては世の中の良心得支えられているのだ。そう思う。みんなの良心得この「つぶやき漢字ドリル」はできた。

ではその根本の思想を探ってみよう。「一斉授業の復権」私の思想の源泉だ。

## 一 斉授業の復権 p126から

文字指導は、子どもにも指導する教師にも、もつとも忍耐のいる作業である。漢字を正しい書き順で書かせるのと、いいかげんに書かせるのでは、教育的に百倍の差が生まれる。漢字の習得は抽象思考、学力的自立の土台を築く作業だ。おろそかにすれば、あとに響く。

「書く」とは再生可能な知識を得ること  
「うちの園児は難しい漢字をたくさん読むことができます」こんなことを売りにする幼稚園がけっこうあります。鰯、鮪、鯨、狐、狸・・・園児たちはこんな漢字を読んでいます。一方、小学校一年生で学習する漢字は花、虫、石、青など、簡単な画数の少ない漢字です。

なぜ、小学校は簡単な画数の少ない漢字から学習するのか、これをバシッと述べることができなければ、小学校とはどんな力を子どもたちにつけるところなのかを保護者に説明し、信頼を得ていくことはできません。略 それでは、難しい漢字を読む幼稚園児の脳では、どんなことが起こっているのでしょうか。

この時期の子どもたちにとって、漢字は「読む」のではなくて、むしろ「呼ぶ」といつてもいいような認識です。略

鰯、鮪という漢字は、写真やカードと変わらないのです。略、この時期の記憶は丸覚え、識別可能・再生不可能な記憶です。

これに対して、小学校での漢字学習の特色は、再生可能な知識としての漢字学習だということ です。分解して、記憶して、それを順序正しく呼び出して、再生するという脳のはたらきが求められます。これは人間としての大切な「分解して総合する、あるいは、分析して統合する」という脳のはたらきで、これ以後、人として学習し研究し実践していくうえでもつとも大切な原理とのはじめの遭遇です。略

昔の人は子どもに「熊」という字を教えるとき「ム、ツキ、ヒ、ヒ、ドンドンドン」と教えました。「読」という字を教えるとき、「ナベブタ、ニ、クチ、ジュウイチ、ワ、ル」と教えました。私たちはこの先人の知恵に学びべきではないでしょうか。この先人の教え方は、小学校での漢字学習のなんたるかをほとんど理解しない教師より

はるかに実践的でした。かも小学校の時期の漢字学習における教育的意義を踏まえた教え方です。略 小学校時代は、幼児期から培ってきた「丸覚え」という伝家の宝刀を武器に、新たな学習方法である「分析して統合する」という学習方法を身につけていく時期なのです。漢字を読むときは「丸覚え」という伝家の宝刀を大いに生かし書くことということで新たな学習方法をしっかりと身につけさせていかななくてはなりません。

順序正しく服がたためる。自分のものが整理できる。ルールが守れる。これら生活のなかにある課題と漢字の書き順を正しく理解し、正しい漢字を書くことができることは、同じ脳のはたらきといっているでしょう。ここに、生活指導と学習指導を一元的にとらえ授業で鍛えていく根拠もあると思います。略

私は「丸覚え」の方法として清風堂から「漢字かるた」を「分解して統合」の学習方法の具体化として「つぶやき漢字ドリル」を小学館から出版したことになります。ぜひ店頭で手に取ってみてくださいね。

新たな時代への私からのお年玉です。